学校法人朴沢学園中期経営計画進捗報告（第1回、2024（令和6）年度）

中期経営計画期間は2024(令和6）年度から5年間であり、初年度の進捗を下記のとおり報告するものである。

（評価　〇:評価有　△:評価不十分　×:未実施）

目標	進捗		次年度以降取組
	評価	概要	
＜全体＞			
〇学生・生徒確保 （大学:入学定員×1.15） （高校:入学定員）	△	〇大学:585名 《定員割れ▲15名》 ※充足率97．5% 〇高校:257名　入学定員×0．78	＜大学＞ 〇学生募集企画委員会を組織し、附属高校、指定・協定校、同窓会、卒業生教員との連携強化策を検討し全学あげて定員確保に取組む。 〇オープンキャンパスやHP等のメディアミックス等で、高校1年生にも高い情報コンテンツを整備し、幅広響く質のい層への大学PR機会を創出する。 ＜高校＞ 〇募集広報の強化 〇受験者1000名確保 〇中学校教員塾講師対象公開授業 〇転退学防止の取組強化
＜個別・大学＞			
1．教育研究			
⑴学修者本位の学修の実現ならびに教育の質的転換	△	〇「学生カルテ」による学修状況を学　生に提供するとともに、「DP到達度調査」を実施し、卒業生に対して「学修成果の指標」を配布した。 〇統合事務システム更改にあたり「学修ポートフォリオ」の導入を検討している。	〇各授業においてICTを利活用することを標榜し、DXによる教育の質的転換を図る。 〇学修成果の達成状況等の分析を行い、教育の質の改善に繋げる。
⑵カリキュラム改革	△	〇カリキュラム・ツリー(履修系統図)を策定して、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係を図式化した。	〇現在の6学科体制を踏まえ、新学科設置等プロジェクトチームと連携してカリキュラムの見直しを検討する。
⑶教員養成の更なる強化	△	〇「未来先生」を再開して2年目となるが、昨年度より10名増え53名の学生が学校現場を経験した。今年度は、昨年度を3名上回る18名が教員採用試験に合格することができた。 〇小学校の教員免許を取得できる体制の構築・実現化を図れていない。	〇教採塾Classroomや模擬授業の充実を図り教員採用試験対策を強化する。教員採用試験現役合格者は、20名以上を目標とする。 〇3年生から教員採用試験を受験できる自治体に関する情報を速やかに学生に提供し、受験体制を整えていく。 〇小学校の教員免許養成課程の設置について具体的な検討を進める。
⑷高大接続・高大連携教育の一層の充実	△	〇日本サッカー協会認定「Cライセンスコーチ」資格の取得に繋がる授業科目(船岡キャンパスコース・川平キャンパスコース)を新設を準備した。 〇附属明成高校、古川学園高校、柴田高校に高大連携事業の提供科目として「体育原理」等を提供し、生徒の受入れを行った。	〇附属高校等支援企画実施担当と連携して、「7年一環教育」について検討を深化させる。 〇日本サッカー協会認定「Cライセンスコーチ」資格の取得に繋がる授業科目(船岡キャンパスコース・川平キャンパスコース)を開講し、高大連携事業の強化及びアカデミックパートナーシップ協定の活用を推進する。 〇附属明成高校、古川学園高校、柴田高校及びその他の連携高校における「探求の活動」を基にした高大接続教育の実現を目指す。

2. 学生支援･キャリア支援			
⑴学生生活の更なる充実	△	○各支援機能において学生からの「相談しやすい窓口」に努め、個々の学生の悩みに丁寧に対応し適切な支援を実施した。 ○修学に限らずクラブ活動支援や大学祭などのイベント開催を通じ、学生生活の充実に取り組むことができた。	○学生生活部内の各相談窓口をフルに活用し経済的事情や心と身体に様々な悩みを抱えた学生の問題解決に向け十分な支援を行う。 ○学生がクラブ活動や各種イベントなどのコミュニティに参画できる環境や機会を整え、ICTを活用した情報提供等、充実した学生生活のサポートを行う。 ○高騰する食糧費対策として学食の費用補助など学生の負担軽減を実施する。
⑵本学独自の給付型奨学金制度の拡充	○	○本学の給付型奨学金採択者として 3名を支援し就学認定支援につなげた。 ○自治体等の奨学金情報を適時発信し学生の理解が深まるよう環境整備に取組んだ。	○経済的に困窮する学生に早期アプローチを行い、早い段階から適切に支援できるよう努める。 ○新設された多子世帯への修学支援制度等をしっかり利用できるよう能動的な支援に取り組む。 ○同窓会による支援も活用していく。
⑶部活動及び課外活動の支援の強化	○	○学友会、保護者会と連携してクラブ活動費の支援を実施した。また、特に優秀な成績を収めたクラブ・個人については懸垂幕を掲示し意欲向上を図った。 ○令和6年度には、バレーボールの関東強豪校とのホームゲームを開催し、本学運動部活動にかかる支援強化を図った。 ○卒業生の世界リレー出場、デフリンピック東京大会出場決定などオリンピック・デフリンピック出場に向けて全学的な支援体制に取り組んでいる。 ○令和6年度までに柴田町、亘理町および山元町において学生による中学校部活動支援活動体制を確立・実施した。	○学内組織及び学友会、保護者会との連携を図り、部活動及び課外活動支援を強化していく。 ○引き続き近隣自治体と協力体制を構築するとともに、各種競技の強豪校とのマッチングを中心としたホームゲームを開催し本学運動部の強化支援を継続する。 ○今後も卒業生を含めオリパラ・デフで活躍する選手の輩出に向けて全学的に取り組むとともに、同窓会による支援も活用していく。
⑷大学スポーツの強化とともに安全安心の向上	○	○学友会とスポーツ局との連携で安全安心なクラブ活動を目的とした、熱中症や脳震盪等の対策研修会を実施。 ○クラブ活動監督ミーティングを開催し、UNIVASの講師による講演や安全安心への取り組みの周知を行なった。 ○UNIVASのSSCを取得申請する際に大学の体育施設・設備および指導体制・指導方法の状況について、一定の評価を得ている。 ○特別指定競技部（18部）に対してスポーツ局から安心安全プロジェクトを実施し、UNIVASのSSCを取得した。これにより安心・安全な大学スポーツ活動の実現に向けた環境整備を強化していることを内外に発信できることとなった。	○安心安全なクラブ活動運営の充実に向け、適切な危機管理態勢を整えられるようセミナー等の啓蒙活動を継続する。 ○UNIVASのSSC認証を全クラブに拡大していく。

⑸キャリア支援の更なる強化	△	○学生への就職支援の取組み時期を早め、よりきめ細かな指導に努め高い就職率を維持した(99.1%)。 ○公務員試験合格者数増加に向け、試験対策として模擬試験を実施した。 ○仙台経済同友会と連携し、部活動指導社員を採用する企業の説明会を実施した。 ○「未来先生」による学校インターンシップで現場体験の機会を増やすことにより「先生になりたいという気持ち」を一層高め教員採用試験合格者の増加に繋がっている。	○早期化、個別化する学生の就職活動の支援策を強化する。 ○公務員採用塾を開講し、公安系のみならず一般行政職を目指す学生へのバックアップを図る。 ○仙台経済同友会との連携を強化する。 ○学校現場でのインターンシップにおける学生トラブル等にきめ細かに対応していく仕組みを整備し、大学に対する学生の信頼感を高めていく。
3. 地域貢献			
⑴市町村との一層の連携強化	○	○岩沼市、柴田町、亘理町、山元町および富谷市の中学校部活動支援により、地域貢献の推進および学生の指導実学機会の拡充を図った。 ○令和6年度には柴田町「未来アスリート育成・「未来先生」、大河原町「3小学校との体力づくり連携事業」を予定通り実施した。 ○第1回アイリスオーヤマ杯女子硬式野球交流大会を白石市と共催、柴田町、大河原町、角田市の後援により、令和6年4月27・28日に開催した。 （白石市政70周年記念大会として） ○「未来先生」を再開して2年目となるが、昨年度より10名増え53名の学生が学校現場を経験した。 ○沖縄県石垣市における「合宿＋アルバイト」を試験的に実施し、石垣市から高く評価された。	○中学校部活支援及び健康推進事業等の市町との連携事業を計画的に継続・実施する。 ○アイリスオーヤマ杯女子硬式野球交流大会を継続し、柴田町、白石市、角田市及び蔵王町との連携を強化する。（第2回大会は令和7年4月19・20日に開催。蔵王町政70周年記念大会として） ○柴田町教育委員会とGoogleフォームで収集した未来先生の参加状況と学生の相談状況をデータで共有し連携強化を図り未来先生を充実させていく。 ○活動定着に向け、石垣市との連携を強化する。
⑵県内のプロスポーツや産業界との一層の連携強化	△	○令和6年度は、アカデミックパートナーシップを締結する4球団のうち株式会社マイナビフットボールクラブを除く3球団に対し、「キャリアプランニングⅡ」によるインターンシップを継続実施した。	○これまでの取り組みについて成果と課題を整理し、各種事業について、さらに多くの学生の参画を促しながら継続・拡充する
⑶防災教育、SDGsの積極的な取り組み	△	①防災士受験者は、昨年度より28名増え97名となった。合格者は82名で合格率は84%であった。 ○SDGsの取組への意識啓発がHP等限定的であった。	○学生の後期受講に連接して、学生の防災士受験対策の強化を図り合格率90%を目標とする。 ○学内外における災害発生時の対応やリスク管理かかる注意喚起を随時行い、防災意識の啓蒙を行う。 ○各種イベント、授業等を通じて学生のSDGsへの意識啓発を図る。 ○柴田町と連携し、「地域の防災力」向上に貢献する。
⑷リカレント教育の更なる充実	△	○職業実践力育成プログラム（BP)として開設4年目の「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」を開講し6人の社会人が受講し全員が修了した。 ○令和6年度は、運動部活動の地域移行を念頭に置いた幅広い層への地域スポーツ指導者育成に向けたリスキリング講座である「指導者育成プログラム」を実施した。 ○大学院の令和7年度社会人入学者2名（うち留学生1名）	○厚生労働省の教育訓練給付制度の普及促進を含め、HPでの告知及び地域の幼稚園・保育所等に募集要項等の配布を行い、社会人の受講拡大を図る。 ○引き続き、スポーツ指導者育成に向けたリスキリング講座を企画し実施する。 ○HP等を通して、現職教員や社会人に対し、大学院での学びについて広く周知する。 ○みやぎ県民大学の受講者増を目指す。

4. 国際交流			
⑴学生の海外派遣の一層の充実及び海外からの留学生受け入れ強化	△	○令和6年度は、独立行政法人日本　　学生支援機構（JASSO）の補助金を利用したプログラムについては、8プログラムが採択され、ベラルーシを除く7プログラム（受給人数9名）を実施した。また、上記プログラム以外にも次年度以降のJASSOの採択を目指して「カリフォルニア州立大学ロングビーチ校」、「フィンランド」、「タイ王国」の3プログラムを実施した。 ○学部学生として4年間学修する外国人留学生を増加させるため、中華人民共和国内の学校「上海市文来高校(2024年10月1日調印)」および「瀋陽万葉日本語養成学校(2025年4月2日調印)」と連携協定を締結した。 ○海外協定校を指定校とする推薦入学制度を導入した。 ○オンラインを活用した国際交流プログラムを実施し、海外短期研修の事前・事後に海外協定校の担当教職員に対する適切な指導方法を整備中である。	○令和7年度はJASSO奨学金プログラムとして5プログラムが採択(追加採択待ち3プログラム)されており、全て実施する方向で取り組む。 ○提携先の大学等からの留学生数の拡大に向け努力する。 ○学部留学生に対する日本語教育体制を強化する。 ○オンラインを活用した国際交流プログラムの実施に向け継続整備を実施する。
5. 学生募集			
⑴学生募集の強化	△	○同窓会理事に同行し、高校進路指導教員に入試説明を行うなど同窓会との連携強化を図った。 ○高校訪問専担者による大学の情報提供および高校の情報収集を行うことにより、きめ細やかな学生募集活動を行った。 ○SNSも活用した大学案内の作成、LINEを活用した入試およびOC情報の発信に努めた ○北海道地区の本学卒業教員に対して訪問等により情報収集を図り、志願者数の増加に努めた。	○学生募集企画委員会を組織し、教職員が一丸となって全学体制で学生募集に注力する。 ○宮城県内高校訪問を重点に実施する教員による情報収集結果を活かした取組みを進め志願者数の増加を図る。 ○HPやSNS広告等あらゆる媒体による情報発信を工夫し、実効性のある大学紹介の機会を増加させる。 ○高校のニーズに応じた指定校枠の設定及び早期の提示等、指定・協定校、附属校との深耕を図り、志願者数増加に努める。 ○学部留学生の増加を目指す
⑵大学院の定員充足	△	○定員：46名　現員：25名 ○現員　1年：10名　2年15名 ○令和7年度入試結果：入学者9名、うち、現役内部進学者3名、留学生3名	○各学科教員と連携を取りながら、学生に大学院の魅力を周知し、内部進学者数の増加を図る。 ○国際交流担当部署、関連教員との連携を密にし、情報共有を図りながら留学生数の増加を図る。
⑶広報活動の強化	△	○本学HPにて、年間61本のトピックス記事を掲載。さらに、各報道機関に向けて16本のプレスリリースを発信し、地域・全国への情報発信を強化した。 ○報道室、スポーツ局と連携し、取材に結びつく企画を積極的に提案・実 施。入試課と連携したオープン キャンパスの告知等、学内外の協力体制を築き、本学の広報基盤を強化 した ○本学公式SNS(X、Instagramなど)を通じた情報発信に注力し、フォローワー数は4，500人に到達。目標の5，000人には届かなかったものの、着実な増加を実現 した。 ○福島県郡山西部サッカー場のネーミングライツ取得により、「仙台大学サッカーフィールド郡山」の愛称を広く浸透。本学のブランド力向上に寄与した。	○年間延べ50本以上のトピックス投稿と、20本以上のプレスリリースを配信を目指し、発信力をさらに強化する ○X、InstagramなどSNSを活用し、企 画性の高い投稿やフォローワー参加型キャンペーンを展開。フォロー ワー数5，000人突破を確実に達成する。 ○学内各部門、地域メディア、スポーツ界との連携をさらに深め、本学の魅力を多方面に発信する。

6. 研究費等の外部資金獲得促進			
⑴外部資金の獲得に向けた積極的な取り組み	△	○科学研究費新規採択立40%に対して33.3%と単年度の目標は未達であった。 ○鹿島建設㈱等との共同研究等を継続して実施し、外部資金を獲得している。	○継続して科学研究費および受託研究等の外部資金獲得に目指すとともに、研究活動の活性化を図る。 ○更なる共同研究先の発掘を目指す
＜個別・高校＞			
1．学科教育			
⑴学力向上に向けた授業改善の取組の推進	○	○学習支援ツール「Meta M0Ji」等、ICTを用いた授業改善 ○基礎力診断テスト分析会の実施 ○成績会議による学力の集団的・個別的把握と課題の共有化 ○進路希望や能力に応じた個別指導	○生徒の実態や課題の把握 ○学力上位・下位層への手厚い個別指導 ○「主体的、対話的で、深い学び」の実現による学習意欲の高揚、意義を実感できる学び
⑵免許取得のさらなる強化	○	○〔福祉〕介護福祉士国家試験対策特別講習、保育検定受検・障害者理解サポーター全員取得、質の高い福祉に担い手養成 ○〔食文化〕調理師免許　他 食物調理技術検定、そば道段位等	○〔福祉〕介護福祉士国家試験対策アプリ導入検討、保育検定継続実施、その他細部検討中 ○〔食文化〕調理師免許の取得と職業意識の向上、食物調理技術検定やそば道段位等の民間資格を活用した食文化教育の充実
⑶ICT機器を活用した教育活動	○	○学習支援「Meta MoJi」の活用による効果・効率的な学びの推進 ○iPadを活用した授業・朝学習の実施 ○KMCHの諸機能を活用したスポーツ科学の学びの推進	○令和7年度、全学年の生徒がiPadを所有。様々な場面で活用し、教育活動の効率・効果を向上 ○高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）によるICT教育の充実・拡大
⑷学科間連携取り組み	○	○〔スポーツ3年×福祉1年〕障害者スポーツ、〔スポーツ2年女×福祉1～3年〕ユニバーサルスポーツ ○〔スポーツ2年×食文化2年〕みそづくり、〔スポーツ3年×食文化3年〕みそ作り　○部活動への食事提供	○各学科で調整中
⑸カリキュラム改革への取組	○	○令和6年12月、教育課程に関する協議実施 ○普通科：令和8年度入学生教育課程変更案 ○その他各学科：細部の調整によるよる合理化案	○普通科新教育課程案の策定 ○各学科の調整案の検討 ○生徒を伸ばし、外部から見て期待感や魅力が感じられる教育課程の検討・策定
2. 生徒募集			
⑴定員確保に向けた取組強化	○	〔新規事業〕 ○公式LINE開設 ○部活動オープンスクール実施 ○授業見学会実施 ○PR動画作成 ○HPに各種広報コンテンツ掲載　等	○各事業のブラッシュアップ ○各学科主催にミニオープンスクール実施 ○SNS等による広報の活発化 ○中学生に訴求力のある新規事業展開
⑵広報活動の強化	○	○広報チラシの作成と諸行事等での頒布 ○TBS「モニタリング」出演 ○HPでの生徒活動の適宜発信 ○取材依頼の働きかけとマスメディアへの対応	○HP、SNSを活用した間断ない情報発信 ○生徒を前面に立たせたPR活動 ○中学生や保護者にとって魅力的で訴求力のある仙台大・明成高の魅力発信
3. 大学との連携			
⑴高大連携による授業を構想・実践し、専門学科教育の充実	○	○〔スポーツ〕ATによる授業、 子ども運動教育学科、ユニバーサルスポーツの授業　等 ○〔福祉〕介護ロボットゼミナー、S&Cによる授業、AT応急処置講習　等 ○〔食文化〕栄養科教員による指導、マイナビFC高大連携事業、子ども学科との共学　等 〔普通〕子ども運動教育学科教員による授業	○〔5月高大連携意見交換会〕年間計画の策定、課題点の共有 ○〔9月授業見学会〕明成の生徒・授業の実際的理解の促進 ○〔2月総括〕課題・方向性の検討・確認 ○上記3回の全体会議を軸として実務者間で今年度の活動を策定
⑵本校と仙台大学を通した7年間の一貫教育により、専門知識を備えた社会で活躍できる人材育成	○	○7月個別相談会実施 ○仙台大進学希望者への受験指導（小論文、面接、書類作成） ○高大共学の学びの場の設定 ○担当者間での意見交換 ○入学前課題終了の徹底	○年間計画の共有による計画的で、より深い専門教育の展開 ○専門以外の様々な学科との連携による啓発、進路選択先の拡大 ○生徒・学生の交流による7年間の学びのイメージ化

⑶目的意識を持った仙台大学への進学者育成	○	○各学科での仙台大学への訪問、学修や大学生活、進路等の理解 ○仙台大学の教授等による指導を通して学びの魅力の実感 ○志望理由書等の添削を通した目的意識の醸成	○新入試制度に合わせた進路指導 ○高大ともに、大学卒業後の生き方・あり方を考えさせる進路・学修指導の展開 ○学生の声を通した学修やキャリアのイメージ化
4. 地域連携・国際教育			
⑴地域自治体との連携強化	○	○〔スポーツ〕川平小とのスポーツ連携、陸上教室 ○〔福祉〕川平壮寿会との交流、桜ヶ丘地域包括センターとの連携 ○〔食文化〕塩竈市、大郷町との連携 ○〔普通科〕ろりぽっぷ学園との連携	○今年度の活動について調整中
⑵県内体育科との連携	○	○利府高・柴田高との意見交換 ○多賀城市保健体育研究会施設見学と説明	○7月、北海道・東北地区体育科・コース連絡協議会開催
⑶姉妹校との交流推進	○	○〔食文化〕韓国・光州自然高等学校との食文化交流（オンラインにより実施） ○〔普通科〕東洋学園大学との連携協定締結による探究活動の推進	○韓国・光州自然科学高等学校との食文化交流、相互訪問や国際交流行事（キムチフェスティバル等）を活用した交流促進 ○大学教員による講演、本校生徒と大学学生との交流活動を活発化
＜個別・法人＞			
⑴ガバナンス改革の推進	○	○改正私立学校法に対応した寄附行為の改正受け行った。 ○内部統制システム整備の基本方針及び関係規程の整備を行った。	○継続した取組を実践する。
⑵安定した継続可能む財務基盤の構築	△	○臨時的支出（高校級校舎解体）があったものの、継続可能な財務基盤構築に取り組んだ。	○継続して改善を図っていく。
⑶活力があり働き甲斐のある職場の構築	△	○積極的に若手及び女性を登用し活力ある職場作りに努めるとともに、研修や定期的人事異動を実施することで人材育成を図った。	○継続した取組を実践する。
⑷人材の育成・登用を図る	△	○積極的に若手及び女性を登用し活力ある職場作りに努めるとともに、研修や定期的人事異動を実施することで人材育成を図った。	○継続した取組を実践する。
⑸業務の効率化・DX化	△	○業務プロセスのDX化ロードマップの作成、「統合化事務システム構築プロジェクトチーム」を組織し、統合システムの令和8年度導入を目指した検討に着手した。	○「統合化事務システム」の令和8年度導入に 向けた検討の加速化を図る。
⑹危機管理対応の強化	△	○危機管理規程を整備し、法人全体及び各部門における体制を計画化した。	○継続したマニュアルの見直し整備、適時訓練を実施する。